

【自由記述について】

今回の調査では、調査票の最終ページに人権学習や人権啓発のあり方についての自由記述欄を設け、調査対象者に意見を求めたところ、76人から回答があった。自由記述欄には人権学習や人権啓発のあり方だけでなく、様々な人権課題に対する思いや考え方、自身の経験などが書かれており、その内容は多岐にわたる。記述内容から分野別に分類すると、以下のようなものであるが、1通の調査票に複数の内容が書かれているものも多く、分類した件数の合計は76を大きく上回る。

人権学習や人権啓発のあり方について記入を求めたので、人権教育・啓発に関する記述が24件と最も多く、ハートフルフォーラム（地区別懇談会）に関する記述も6件あった。個々の人権課題については、男女平等についてが14件、同和問題13件、子どもの人権6件、外国人の人権6件、障がい者の人権2件、性的マイノリティ2件であった。そして、今回の調査に関する記述が21件あり、人権についての見方・考え方に関する記述が5件あった。そして、人権教育・啓発や個々の人権課題には直接関係しない記述が15件であった。

具体的な記述内容のうち、主なものを分類項目ごとに要約して示すと、以下のとおりである。

■ 人権教育・人権啓発に関する記述

- ・子どもの頃から差別区別をしない生き方や考え方を学ぶことが必要。
- ・人権問題や社会情勢は日々変化するので、学校での人権教育に興味を持ってもらうためにも、アップデートが必要。
- ・大人対象に、地域や職場で実際に赴いて啓発活動をしてほしい。
- ・職場、学校、地域や世代などによって人権学習や人権啓発の内容は異なると思うのでそれにあった学習をしてほしい。
- ・イベント内での人権学習の場を増やしてほしい。
- ・人権教育の方法もドキュメンタリー映像等、実感できるものを取り入れてほしい。
- ・啓発の機会を何度も作ることが大事だと思う。
- ・学校に人権教育の機会を与えるのはもちろんのこと、字の集会等の地域にも人権教育の場を作るべきだ。
- ・これまでのやり方だと、興味のある人だけが参加するので、一方的に講義を聞くのではなく、みんなでワールドカフェ等をしてつながりの場を設けるべき。
- ・コンビニやSNS上で不特定多数の人に目がとまる場所に啓発してほしい。
- ・義務教育から人権教育の工夫が必要だと思う。
- ・高齢者の方々を対象に今の時代の人権や価値観について話してほしい。
- ・人権問題について、他人事に感じてしまうので、自分事と感じられる人権学習をしてほしい。

■ 男女平等に関する記述

- ・親から「女の子らしいものにしなさい」と怒られた記憶があるが、このような「女は女らしく」「男は男らしく」という言葉に違和感がある。
- ・いろんな人の意見が市政に反映されることから、米原市議会議員に女性が一人もいないのが残念。
- ・男女差別が逆転してしまって、女性を守ることが主体となってしまって、男性を守る制度が無くなってきている。
- ・地元ではしきたりや習わしを気にする人が多く、いろいろな協議が「例年通り」で済ましていることに疑問を感じており、自分が疑問に思うことは、しっかり言い合える社会になれることが理想だ。
- ・女性のみ仕事・家事育児を両立していくことが多く、男性の育児参加や職場の理解が進まないとな女性の社会進出は難しいのではないかと。
- ・「男は仕事、女は家庭」の考えを一つの考えとして捉えるべき、何もかも人数を男女半々にするのはおかしい。納得した上での役割分担がされれば、それでいいのではないかと。
- ・相手を理解できなくても受け入れて、一人の個性として尊重できるような社会になってほしい。
- ・多様性を認め合う社会となったが、少子化となるデメリットもある。

■ 同和問題に関する記述

- ・圧倒的にマイナスな経験談を聞くことが多く、関わってはいけないと思ってしまう。
- ・部落差別を助長するだけなので、調査や学習会はなくてよいと思う。
- ・みんなが貧しかったから起こった問題だと思う。
- ・若者が同和問題について理解できているか心配。
- ・同和問題はすでに解決しているが、エセ同和は厳しく対応すべきである。
- ・理解と繋がりを深めるためにも、同和地区の人との交流の場を作ってほしい。
- ・学校で習わなければ、知らないまま過ごしていた。
- ・いまだに同和問題にこだわってることに驚いた。
- ・部落問題を強調するから差別が無くならない。
- ・同和問題の解決には相手を思いやることが必要だ。

■ 子どもの人権に関する記述

- ・子どもがすすすすく幸せに育つ環境作りを考えるべき。
- ・小中高のクラス変更がいつでも簡単にできたら、いじめの問題も減ると思う。
- ・子どもたちが誰でも高度な教育を受けられ、人権を尊重され、たくましく生き抜く力が身につくように援助すべきだと思う。
- ・学校教育の中で人権学習が行われているのに、いじめ問題が無くならないのが残念だ。

■ 外国人の人権に関する記述

- ・外国人も権利を得るには義務があることを知り、勉強してほしい。
- ・互いの理解を得るためにも、一住民として地域活動にも参加してほしい。
- ・外国人は日本の法律に従うべき。

■ 障がい者の人権に関する記述

- ・障がい者の立場で考えられる心のある人を育ててほしい。
- ・小学校でのインクルーシブ教育を進めて、障がいのことを周りにもっと知ってもらいたい。

■ 性的マイノリティに関する記述

- ・性の多様性は受け入れるべきことだが、「身体的区別」と「精神的区別」はちがうので、「書類での男女欄の廃止」や「男女別トイレを廃止」という取り組みはちがうと思う。フリートイレを作るなどの工夫をしてほしい。
- ・自分には性的マイノリティの友人がいるので、差別意識を持ったことはない。

■ ハートフルフォーラムに関する記述

- ・このような行事は不要。
- ・若い方が参加している印象がなく、誰でも参加しやすいテーマや雰囲気づくりをしてほしい。
- ・コロナ禍時は、DVD視聴による取組がされて、リーダーの方々が熱心に感想をまとめていてとても良かった。
- ・日々情勢は変化するので、視聴するDVDや講話を見直してほしい。

■ 調査票に関する記述

- ・人権を積極的に考えていると思ったので、意識調査を今後も続けてほしい。
- ・回答してて、勉強になった。
- ・「家族に関わる人権ついて」の間8「イ」について、子どもを持つ持たないは個人の自由だと思ふし、子どもが欲しくても持てない人もるので、問自体に何を求めているのか疑問に思ふ。
- ・性別と年齢は分析に重要な基礎データであることは理解できるが、「いずれでもない」の表現はどうかと思ふ。
- ・実際に自分自身や身内、友人等に関わりがあったら考えて回答できるが、そうではないと難しい。
- ・以前も回答したが、このアンケートにより米原市が何をして、どう変わったのかよくわからない。

- ・回答しながら徐々に「人権」の問題に向き合えた。アンケートが次にどのように生かされるのか知りたい。
- ・高齢者にこのようなアンケートを行う意味が分からない。
- ・データをとるのに属性を知ることはその人たちが育った時代背景などが反映されているので、性別や年齢を記入する際の断りの一言は必要ではないと思う。
- ・同和問題にこだわりすぎている。
- ・この調査が米原市の施策にどう生かされるのか知りたい。

■ 人権についての見方・考え方

- ・人権をひとくくりにしているが、中身はかなり複雑であり、視点の違いや時代の流れも日々変化をしており、今までの考えが通用しない時代になってくる。
- ・権利とは義務と対になるものと考えているが、人権を考える際に義務が考慮された話を聞くことはない。
- ・差別されていると主張するよりも、自分自身が社会習慣になじめるように学習し、努力することも必要に感じる。

■ その他

- ・人権学習・啓発頑張ってください
- ・市役所の窓口で不愉快だったことがある、市役所職員もしっかり人権学習してほしい。
- ・①米原市人権尊重のまちづくり条例②米原市非核・平和都市宣言③米原市人権尊重都市宣言は米原町当時は公民館に掲示されているが、市に移行されてから印刷物を見たことがない。
- ・自分の生活に余裕がないため、人権について考える気持ちになることが難しい。
- ・米原市の条例・施策について、あまりにも無知すぎたと反省した。
- ・自分なりに一日一日大切に生きられる努力をしている。
- ・人権について学べることが当たり前となり、学ばなくても人権を守られる社会になってほしい。
- ・意見を書けるほどそんなに考えておらず、もっと考えていたらよかったと思っている。

1. 人権教育・啓発に関する記述内容

人権教育・啓発に関する記述では、「幼いころから人権教育を行うほうが効果的だ」「意見交換ができる人権教育を行うべき」「義務教育での人権教育には工夫が必要」「外部の専門家による人権教育も必要」「各世代それぞれに合わせた啓発が大事」「高齢者の方々にいまの時代の人権や価値観を伝えてほしい」「啓発の機会を何度もつくる必要がある」「他人ごとではなく、自分ごとと感じられる人権教育をしてほしい」など、人権教育・啓発に対する要望や提案などが多く上がった。これらはこれまでの人権教育・啓発の取り組みを評価するもので、教育や啓発の成果がより大きくなるようにとの思いから書かれた内容が多かった。

ハートフルフォーラムについては、6件の記述があったが、「参加者が少ない」「若い人が参加していない」といった問題点の指摘や、参加者の意見交換ができる場を設定すること、内容の見直しなどの要望や提案であった。また、「このような行事は不要」という記述も1件あったが、その理由については書かれていなかった。

2. 各人権課題に関する記述

個々の人権課題に関する記述で最も多かったのは、男女平等についてであった（14件）。その中には、「子ども時代に親から女の子らしくしなさいと言われた」「現在でも、しきたりや習わしを気にする人が多い」など、性別役割に関する自分自身の経験についての記述や、女性政治家が非常に少ないこと、男性の育児参加が進んでいないこと、年金について男女の受給格差があることなど、現状の問題点を指摘する記述があった。その一方で、女性が優遇されている、何でも男女半々にするのはおかしいなど、男女共同参画に関わる施策に対する批判的な記述もあった。

同和問題に関する記述は13件であったが、「同和問題はすでに解決している問題だ」「同和問題を強調するから差別が無くならない」などの、いわゆる「寝た子を起こすな」論を支持する記述が4件あった。しかし、今回の調査では（問4）、この5年間に同和問題に関して差別的発言や、間違った内容の発言を直接聞いたという人が4割近くおり、その人たちのなかで発言を聞いて反発・疑問を感じたという人は2割に満たなかった。このように、最近でも同和問題に関して差別的な発言などを直接聞くことは多くある一方で、その発言に対して反発・疑問を感じる人が少ないのである。したがって、同和問題について教育や啓発をしなければ、差別的な発言などを鵜呑みにしたり、それに迎合してしまう人を増やしてしまう恐れがあり、同和問題に関する差別的な発言や間違った発言を批判できる人を増やしていくためにも同和教育・啓発の実施は必要である。

すでにみたとおり、人権教育・啓発全般については、その取り組みを評価する記述が多かったが、同和問題になると、教育・啓発の実施に消極的な意見が出てくる傾向があり、同和教育の意義を伝える啓発が重要である。

一方、「同和問題に関する啓発が大事である」「同和地区の人たちとの交流の場を設けることが必要である」といった記述もみられた。また、「エセ同和行為を厳しく取り締まるべき

だ」「同和問題の解決には、相手を思いやることが必要だ」といった記述もあった。

子どもの人権に関する記述は6件で、いじめ問題についての記述や、すべての子どもが健やかに育つために教育に力を入れることが必要、大人が子どもの気持ちを受け止めることが大事だという記述などがあつた。

外国人の人権に関する記述は6件であつたが、「外国人は日本の法律に従うべき」、「外国人はまず義務を果たすべき」、「外国人は地域活動に参加すべき」など、地域で生活する外国人に対する要望・要求が目立つた。

障がい者の人権に関する記述は2件で、インクルーシブ教育の必要性、人権教育・啓発への要望などがあつた。

性的マイノリティに関する記述は2件で、性の多様性は受け入れるべきだが、男女別という区別を廃止することには問題があるという指摘などがあつた。

具体的な人権課題に関わるものではないが、人権に対する理解についての記述の中で「人権には義務が伴う」「権利だけを主張するのはいけない、まず義務を果たすことが大事だ」という記述があつた。しかし、人権はすべての人が生まれながらに持つ権利であり、何らかの義務を果たした人に与えられるものではない。すべての人は無条件に、何らの前提もなく人権を持っている。人権には義務が伴うという誤解は、権利の行使を抑制することになりかねない。自分の権利を主張せず、それを控え、我慢してしまう人が少なくなく、権利に対する理解を高める教育・啓発が重要である。

3. 調査に関する記述などについて

今回の調査についての記述は21件であるが、調査票への記入を通して、人権を考える機会になつたという、調査を評価する内容のものが5件あつた一方で、調査を実施する意義がわからない、回答するのが難しい、同和問題にこだわり過ぎてているなど、調査に対する批判的な内容のものが7件あつた。これら以外には、性別の問い方についての意見、調査結果を知りたい、この調査が米原市の施策にどう生かされているのかを知りたいなどがあつた。

「その他」に分類したものは15件であるが、人権には直接関わらない内容のもので、米原市に対する要望や批判、近隣のトラブル、将来に対する不安などの記述がみられた。

自由記述欄への記入は任意であるため、ここにあがつた記述内容が市民の意識をそのまま反映しているとはいえない。また、これらの記述内容の中には、人権問題や行政の取り組みなどに対する誤解に基づくものも少なくなかつた。自由記述欄にはこれまで米原市が行つてきた人権啓発が届きにくかつた市民の声が多く含まれていると考えられ、今回の自由記述欄の内容の検討は、今後の人権啓発の手法や内容を考えていく上で、大きな示唆をもたらすものといえる。